

ジョークサロン9月度例会

つぶやき都々逸

佐藤俊一さん kitami-yosuke@1041sato が #ほぼ日刊都々逸 のタグのもとにツイートしたものです。阿部が9月のツイートから拾いました。

▼秋の七草

1 想いつもれば山となでしこ恋くれないに染まる花

撫子（なでしこ）は秋の七草。「大和撫子」といえば、日本女性の美徳を讃える言葉ですが、古くは山里の家々のどこの家々の戸口にも見られた花だったことから「山戸撫子」と書いたんだそうです。

2 色はくちなしまことはいわぬひと夜の夢よ女郎花

秋の七草のひとつが「**女郎花（おみなえし）**」。小さな粟粒の黄色の花が集まって咲く合弁花類で、昔から清楚な美しさを持つ女性にたとえられてきた花です。その色は和歌では“くちなし色”とも。くちなし色は、梔子（くちなし）の実で染める黄色のこと。“口なし”に掛けて「いわぬ色」といわれていたのだそうです。

3 野辺の尾花に招かれゆけば色めきたつや女郎花

秋の七草のひとつ「**尾花**」は**ススキ**の別名。その風趣が馬の尾に似ることからそう呼ぶのだそう。



4 袴の裾を秋風分けてちらとのぞくは白き萩

「藤袴」も万葉の頃からの秋の七草。この花が咲いた野は奈良の昔から女性たちが好んで身につけた藤紫色の袴を脱ぎ捨てたように見えたそう。もちろん、萩の花は秋の七草の主役です。

5 秋という字に草の冠（かんむり）載せて美し萩の花

やはり萩こそ秋の七草の主役でしょうか。

6 大風に葉裏返ってもとに復さずうらみ葛の葉うら哀し

秋の七草の「葛（くず）」の葉は風にすぐ裏返し、晩秋には白っぽい葉裏を見せたままに。”うらみ葛の葉”といえ、信太の森の白狐の名ですが、「うらみ」は”恨み”と”裏見”に掛かっているかと……。

7 月の泪（なみだ）を隠すかひそと萩の下葉に露の珠

和歌の世界に秋を知らせるものとして「萩の下露」という表現があります。冷えた水蒸気が露となって萩の下葉につく現象なんだそう。

8 夕間暮れ萩（おぎ）の上風河原を分けて銀の花穂の波立ちぬ

「萩（はぎ）の下露」と同じ頃、群生する萩（おぎ）をなびかせて吹き渡る「萩（おぎ）の上風」も秋を知らせる現象だそうです

9 萩（おぎ）の上風うわの空耳萩（はぎ）の下露つゆ知らず

なんて冗談はともかく、ぼんやりしてると何も気づかないままに、季節は過ぎてゆきますね。



10 かぐや姫もはやいないとわかってても月光仮面がいるはずよ

かぐや姫は昔々過ぎるかもだけど。月光仮面は”月よりの使者”でしたよね。え、もう月よりの死者!?

かぐや姫もはやいないとわかっててもセーラームーンがいるはずよ

フォロワーから。月光仮面は昭和よ、と平成育ちの娘が言っていました。

11 人生すごろく出た目の勝負転がる先を愉しみに

12 お題「空」

星の数ほど女はいるが夜目にくっきり浮かぶ星

嫁～!(;^_^A

13 年寄りがハメをはずすは毎夜のことよ入歯と眼鏡はずし寝る

若者がハメをはずすは当たり前だが 年寄りだって敗けてない。

14 はなれ坐って泣いてる声にむしを決め込むあきの夜半